

多摩支部会報

平成29年迎春号

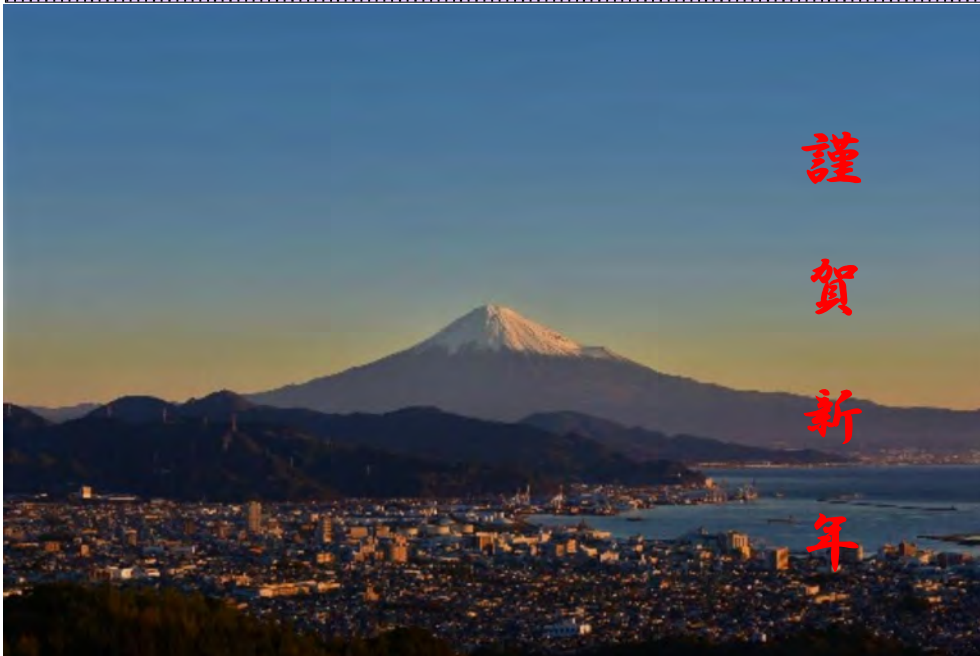
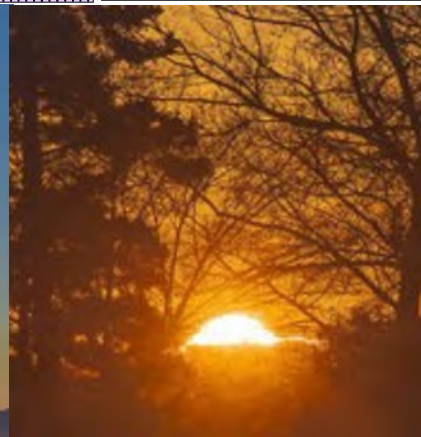
平成29年 1月 吉日

明治大学校友会
東京都多摩支部

支部長 西山 強

広報委 飯田光宏

謹
賀
新
年



新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

早いもので多摩支部のかじ取り役を仰せつかってから1年半が過ぎました。多摩支部管内の全市町の組織化は達成されましたが、女性会員の増大は全く捗どらず、各地

域支部のご尽力をお願いする次第です。

大学の方では、昨年は理事長（柳谷 孝氏）・学長（土屋恵一郎氏）ともに若返り、確実に前進すべく、諸施策が進められています。

多摩支部も将来を見据えて、若い人たちを取込んだ組織づくりや組織運営、事業活動などが求められるものと判断し、期待しております。

特に多摩支部は在住校友が数千人を超える地域支部から500人以下の地域支部等大小21の地域支部を擁しておりますが、規模の大きさに関係なく求められるのは「質」の向上ではないでしょうか。

それには近隣の地域支部の状況を良く見知り、良い所は取り入れ、又は各種事業を協賛し、輪を広げて行くのが一番の近道かと考

えていますが如何でしょうか。

土屋学長はそれぞれの存在を主張しながら、寄り集まったアッセムブリーが「明治は一つ」ではないかと言われてますが、私も同感です。

各地域支部の良い所を磨き、学び、校友の絆を強くし「多摩地域支部のアッセムブリー（多摩支部はひとつ）」で、前へ進めながら、輝く多摩家族」と呼ばれる支部を作っていくではありませんか！

私の考える多摩支部飛躍への三つ

1. 各地域支部の質の向上をはかって行く。
2. 女性を含めた若者の参画。
3. 情報のスピードアップをはかる。

今年は酉歳です。神社仏閣に「鳥居」があるように開運につながる年と言われています。我々も昨年同様に各地域支部の特長を生かし、上記の課題を意識しながら開運を招き、校友の絆を強くし「明治はひとつ、前へ」の旗のもと、精一杯汗をかきましょう。

多摩支部長 西山 強

(昭和36年 工 国分寺)

写真提供 日本平からの富士山夜明け前・江面利和
町田市小山町の日の出・・・永田二夫

平成29年強い明治を期待



平成29年の正月、校友各位、どのように過ごされましたか。多くの校友が2日・3日は、母校選手の活躍を期待してテレビ応援されたものと思います。町田地域支部では12名で、往路3区、藤沢に恒例のように「のぼり」を持って駆けつけました。

以下観戦記：高橋啓

2017年は箱根駅伝応援から活動をスタート致しました。テレビ・ラジオ・現地観戦というのが昔からの楽しみ方ですが、周りを見渡すと、インターネットによる新たなスタイルも見受けられました。老若男女問わずアナログ・

デジタルを駆使して楽しむ姿は不思議な感じもしますが、時代の流れに合っているのだなと思いました。(補足：飯田) 近くの吉澤税理士事務所で甘酒で気合いを入れ、街頭待機。こない、明治が来ない、漸く18位?で通過。そのまま?往路終了!

復路もほとんど順位変化なく、遂にアンカーには母校の襷が繋がらず屈辱の繰り上げスタート。選手も、OBファンも学校関係者もガックリと肩を落としてしまいました。



(C)明大スポーツ

大学日本一への道は、早々に絶たれた。対抗戦を3位で終え、大学選手権初戦となる3回戦で関西リーグ3位の京産大を相手に迎えた明治。前半は試合開始10分間で右ウイング矢野湧大(文1=大分舞鶴)が2トライを奪ったものの、2本のモルトライを献上。19-14で折り返した後半は1トライも奪えず22-26でノーサイド。京産大に公式戦初の敗北を喫し、5年ぶりの年越しを果たした昨年とは打って変わり12月2週目でのシーズン閉幕となった。

明大スポーツ 江原記者 転載

▼12・12 準々決勝 対大体大戦(町田市立陸上競技場) 明大1-2大体大○

早すぎる幕引きとなった。総理大臣杯、関東大学1部リーグ戦での優勝に続き3冠目を狙った今大会。総理大臣杯準々決勝では3-0で下した大体大相手に立ち上がりから積極的に攻撃を仕掛けるも決め切れない。逆に前半に2失点を喫し2点を追う展開となる。後半4分に道淵諒平(農4=ベガルタ仙台ユース)がミドルシュートを決め逆転に望みをつなげたが、その後は相手の好守に阻まれ追いつくことはできず試合終了。あっけなく鳴り響くホイッスルに選手の目には涙がたまった。今シーズン最後の大会はベスト8という結果で終えることとなった。

明大スポーツ 亀井記者 転載



(C)明大スポーツ



頑張れ？法科大学院！！

昨年12月25日、文部科学省からとんでもないクリスマスプレゼントがありました。母校明治大学の法科大学院が、実績不良により補助金ゼロ査定を受けたというものです。これは実に深刻な問題と捉え、批判を承知で会報記事にいたしました—広報委員 飯田光宏

法科大学院4校 補助金配分ゼロ

文部科学省は26日、全国の法科大学院41校に交付する来年度の補助金の配分率を公表した。早稲田大、慶応大、京大など10校で100%を超えたが、明治大など4校は補助金がゼロとなった。

文科省は司法試験合格率や入学定員充足率などから補助金の基礎額を5段階に分類。さらに各校の教育上の取り組みに応じて加算している。配分率が高かったのは早稲田大で140%。海外大学の教授による講義などが評価された。一方、配分率が0%だったのは、北海学園大、明治大、近畿大、南山大の4校。4校とも累積合格率が低迷し、今年度の定員充足率も6〜45%にとどまった。

読売12月27日 朝刊

大学院名	合格率	合格者数	受験者数
一橋	49.61	63	127
東京	48.07	137	285
京都	47.30	105	222
慶応	44.29	155	350
早稲田	35.85	152	424
神戸	32.28	41	127
中央	29.44	136	462
九州	28.80	36	125
大阪	26.75	42	157
愛知	26.67	4	15
明治	12.12	36	297
平均	22.95	1583	6899

(産経ニュースweb)

大学院名	合格者数
慶応	155
早稲田	152
東京	137
中央	136
一橋	63
大阪	42
神戸	41
九州	36
明治	36
名古屋	34
合格者数	1583

年度	最終合格者数	最終合格率	合格者数順位	年度	最終合格者数	最終合格率	合格者数順位
2007	80 115	40.0 51.6	6 5	2012	82 155	20.4 32.8	6 4
2008	84 130	31.8 37.7	6 4	2013	65 184	18.4 38.4	8 3
2009	96 124	31.0 32.6	6 5	2014	63 172	17.3 35.2	8 1
2010	85 130	25.4 32.7	6 5	2015	53 145	14.6 30.8	9 5
2011	90 138	24.0 31.9	6 5	2016	36 152	12.1 35.8	9 2

編集後書 様々な期待と不安を持って、平成29年が素晴らしい青空のもと始まりました。この青空のように澄んだ明るい年であって欲しいと思います。年末・年始は多くの校友の期待もむなくメジャースポーツでは「強い明治」の姿はありませんでした。学業面でも上記表のごときであり、受験者数や人気度に加えて、真の「質」の向上が求められる「今」だと思います。2018年問題が始まります。校友の皆さん、募金への協力をはじめ、しっかり母校を応援していきましょう。 多摩支部広報委員会
(法科大学院関係資料出典：読売新聞・産経ニュース・2チャンネルほか/ 表の数値の左が母校・右は？大学)